

生活自立支援キャンプⅡ(ひとり親家庭の子ども支援事業)
～わくわくチャレンジキャンプ(長崎)～

[主催]国立諫早青少年自然の家

[協力]長崎バイオパーク 諫早市鳥獣加工販売組合

[期日]令和4年7月16日(土)～18日(月・祝)

[活動場所]国立諫早青少年自然の家、長崎バイオパーク

[参加者]就学前～高校生、父親、母親 41名(男性21名、女性20名)

[講師]末竹 純(長崎バイオパーク飼育展示課 学芸員)

金谷 春(諫早市鳥獣処理加工販売組合) 陣野 真理(トミーズ&ダイスカフェ代表)

[担当職員]小野 栄策、寺中 拓也、宇都 志津佳、稲原 涼馬

1)趣旨

ひとり親家庭の子供たちが共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」や「洗濯・調理」といった基本的習慣の定着を図る。また、自然の家でしかできない体験(沢登り・キャンプファイヤー)を通して、自然体験活動の楽しさや達成感を味わう。さらに、長崎バイオパークを訪れ、動物と触れ合う体験を通して、自然の大きな仕組みや生命の大切さを感じ取る。

2)目標

- ①自分のことは自分でする。
- ②とにかく楽しむ。
- ③動物と触れ合う。

3)プログラム

1日目	2日目	3日目
送迎	6:30 起床	6:30 起床
10:00 開会式	7:00 朝食(レストラン)	7:00 朝食(レストラン)
10:30 アイスブレイク 仲間づくりゲーム	8:00 移動(バイオパークへ)	8:00 清掃・片付け
12:00 昼食(レストラン)	9:30 動物園散策【写真④】	9:00 ジビエ料理とは 【写真⑦】
13:00 沢登り【写真①】	12:00 昼食(動物園内レストラン)	9:30 ジビエバーガーを つくろう 【写真⑧】
17:00 夕食(レストラン)	13:00 動物園特別プログラム 【写真⑤】	12:00 美食、片付け
18:00 洗濯【写真②】 リラックスタイム	15:00 移動(自然の家へ)	13:00 全体の振り返り
19:00 入浴、就寝準備	17:00 夕食(レストラン)	13:30 閉会式
20:00 一日の振り返り 【写真③】	19:00 キャンプファイヤー 【写真⑥】	送迎
21:00 就寝	20:00 入浴、就寝準備	
	21:00 一日の振り返り	
	21:30 就寝	

4)事業展開

① 沢登り



前日が大雨だったため、比較的流れがゆるやかで安全なコースに変更して沢登りを行いました。水量が多かったため、滝を登ることに苦労しましたが、みんなで協力して、無事全員ゴールすることができました。スリルを味わえて楽しかったと振り返りで感想を述べていました。

② 洗濯



親に頼らない生活習慣の確立のために、沢活動で汚れた洋服や靴を自分で手洗いしました。洗った衣類は部屋に干して、バッグにしまうまで、経験しました。洗濯機に慣れた子供達にとって、たいへんな仕事だったとは思いますが、自分のことは自分でする意識を高めるためにも、貴重な経験となりました。

③ 活動の振り返り



一日の終わりに班で活動の振り返りを行いました。よかったことを出し合うことで、次の活動の改善点になりました。会を重ねるごとに話し合いがスムーズになってきました。

④ バイオパーク(えさやり体験)



はじめて動物園を訪れた子も多く、最初は動物が怖いと感じていましたが、動物と触れ合ったり、エサをあげたりすることで、動物との距離が縮まってきたようでした。

⑤ バイオパーク(キーホルダーづくり)



キャンプの思い出として、キーホルダー作りをしました。この活動で使用する道具や材料は、すべて動物園から出た廃材を再利用したものです。ビーバーの削った木やフラミンゴの羽、ヤマアラシの針毛が工作に役立ち、SDGsの視点からも効果的でした。

⑥ キャンプファイヤー



キャンプファイヤーを行いました。ボランティアの学生達が会の進行やレクリエーションを行ってくれました。火を見つめながら楽しいひと時を過ごすとともに、これまでの活動を静かに振り返り、明日の班行動につなげることができました。

⑦ ジビエについての話



日頃から、捕獲された野生の鳥獣を食材として加工されている講師の金谷さんに、ジビエについて話をうかがいました。子供達が興味を持てるように、クイズ形式でイノシシの生態について説明してもらいました。自然の家でも見かけることのできるイノシシですが、怖いというイメージから少し身近な存在としてとらえることができました。

⑧ ジビエバーガーづくり



ハンバーガーショップを経営されている講師の陣野さんから、ハンバーガーの作り方を教えていただきました。パンやハンバーガーを薪で焼くことはとても難しく、火の調整が難しかったです。美味しいハンバーガーに大満足でした。ハンバーグの中に加えられた、いのししの肉を食することで、命をいただく“食育”につなげることができました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・親一人で、動物園に連れて行くことがなかなかできないので、とてもありがたく楽しむことができました。
- ・最初は、動物に触れる勇気がなかったけど、キャンプをして、動物にエサを与える勇気を持ってました。

6) 成果と課題

① 成果

- ・連携団体が増えて、動物との関りをテーマに効果的にプログラムを展開できた。
- ・振り返りの時間を効果的に行うことで、キャンプを通して、表現する力や自分たちで話し合う力が高まってきた。

② 課題

- ・夏季の暑さ対策を行う必要がある。
- ・活動を仕組みすぎて、ゆとりのないプログラムになってしまった。結果、時間に追われる指導になってしまった。



目標2 飢餓をゼロ

ジビエ料理を体験することで、命をいただくことの尊さを学びます。



目標4 質の高い教育をみんなに

動物と触れ合う体験を通して、人と動物が共生する社会を目指します。